

ディーアイエス物流



ディーアイエス物流(太田光俊社長)は「安心」「確実」「敏速」をモットーとして自動倉庫などのマテハン機器をフルに活用した、効率的なSCMの実現に努力しています。

DISの仕入・販売と有機的に連携された最新技術を駆使した最先端のITインフラ「DIS-NET II」をベースに、全国14拠点の物流センターを一元的に管理運営しており、ローコストオペレーションで且つ、お客様のあらゆるニーズにきめ細かにお応えできる体制を整えています。

平成20年度には商品150万アイテム、入出荷数量4,400万個以上を取り扱うまでになり、お客様より多くの信頼を頂いております。

平成11年には、ISO14001の認証を取得し、物流業界ではいち早く環境負荷低減につながる活動を経営に取り入れ、10年以上環境問題に取り組んで参りました。

また、今年3月には関東第3センター内に「カスタマイズセンター」が完成しました。

これは、独立系ITディストリビューターとして、それぞれの顧客の要望を販売店やユーザーに成り代わり、このカスタマイズセンターで組み込んで届ける体制で、自由度と利便性が格段に向上しました。

これからも、DISグループ連携のもと、「品質」「技術」「サービス」を総合的に取り扱い、様々な付加価値を提供して参ります。

ディーアイエスソリューション

ソリューション事業を展開するディーアイエスソリューション(小川仁司社長)は、システムインテグレーターとしての技術に立脚した「技術立社」を目指しています。

当社は繊維製造業向けモニタリングシステム開発からスタートしました。織機の配台や検反、モニタリングを可能にする生産管理システム「TX-net III」は、織物生産に最適なSCM構築を目的にバージョンアップを重ねてきました。

現在、システムインテグレーターとしての技術力向上のため、社内では「大容量」「ネットワーク」「ウィンドウズ」アプリケーション「BCP(事業継続)」の5つの分科会を設けて研究開発を進めています。

大容量及びウィンドウズ分科会は、今後の大容量時代を見据えて仮想化技術を研究開発しています。ネットワーク分科会では非接触型ICカードなどで実用化が進むRFID(電波による個体識別)技術の研究に取り組んでいます。

これら5つのコア技術が、当社の技術的方法論の中核となり、社内をクロスファンクシヨンの形で取り組むことで磨きを掛けていきます。

圧倒的な販売力・突破力こそDISの原点

ダイワボウ情報システム

野上 義博 社長



ダイワボウ情報システム(DIS)は、1982年にダイワボウの非繊維事業展開の一環として設立されました。以来27年間、IT関連機器の独立系ディストリビューターとして順調に成長してきました。今回の経営統合でダイワボウグループのITインフラ流通事業を担当することとなりましたが、あらためてホールディングス全体に占める収益比率の大きさなどその責任の重さを痛感しています。

IT業界も厳しさが増えています。当社は全世界のIT関連ハード及びソフト製品を扱っていますが近年、競合他社が扱う商品もスペックなど似通っておりその扱い製品にはほとんど差異がありません。それだけに今後、どのような形で差別化出来るかが重要なテーマとなっています。一方で、DISのもう一つの強みである全国90カ所の販売拠点網、17,000社の販売パートナーを生かした地域密着営業の徹底もカギを握っています。もう一度原点に立ち返って、仕入先メーカーとの協業、販売パートナーとの連携などを土台に、お客様との信頼関係強化に取り組んでいます。

今年4月に新設したテクニカル推進本部は、DISグループが付加価値機能を強化・拡大するために重要な役割を果たすと位置づけています。同本部は傘下で、ディーアイエス物流などと協業する「カスタマイズセンター」を持ち、インプリメンテーションやキッティングなどカスタマイズに関するあらゆる受注に素早く対応できる機能を備えています。つまり最新機能の組み込みなどでパソコンを出荷前に完成しておくのがインプリメンテーション

業務であり、ユーザーの要望に応じて必要な機能を組み込むのがキッティング業務です。これらは基本的にはメーカーが所有する機能ですが、現実的にはユーザーに近い当社が最も適役といえます。同時に、150万アイテムに及ぶ全世界のIT関連商品を扱う独立系ディストリビューターだからこそできる業(わざ)だと自負しています。

同推進本部はまた、最新のサーバーやネットワーク機能などを通し、DISグループの技術的蓄積を共有化する仕組みも備えています。既存の販売推進本部と車の両輪になって、営業部隊であるコーポレート、コンシューマー両部門をしっかりとサポートするものと期待しています。それだけに営業部隊はIT商品販売のプロにふさわしい商品知識を身につけて、営業の原点といえる販売力を最大限発揮して厳しい市場環境を突破します。この間、なかなか期待通りの成果が上がっていなかった首都圏市場ですが、各種基盤整備によって、今後の結果が期待できる体制になっています。

多くのDIS社員は、DISの出自はダイワボウにあるという意識があります。とは言え設立以来、まったく異なる性質の事業を展開してきたわけですから、完全な統合は簡単ではなく統合効果を性急に求めてもよくないと考えています。しかし先述したように同じDNAを共有するもの同士ですから、相互理解さえ進めば従来の両社の延長線上にはないものも含め、いろんな相乗効果が発揮できる可能性があります。それは意外と早いかもしれません。

ディーアイエステクノサービス ディーアイエスアトワークス

ディーアイエステクノサービス(菊井薫社長)は、DISのテクニカルサポートを担い、技術で貢献する企業です。そのために技術力と信頼性の向上、サービス&サポート事業の即応力強化、受託業務の運営の効率化の徹底に取り組んでいます。

新商材や海外商材が増える中で、サービス&サポート事業はまだ不十分と考えます。ここに磨きを掛けていくことで、販売店、ユーザー、メーカーに役立つ企業を目指します。

ディーアイエスアトワークス(菊井薫社

長)は創業以来、「着想する、創造する、表現する」を企業理念に、お客様の中核を為すイメージ戦略、ビジュアル戦略の支援を行ってきました。



DISグループが提供するITの総合情報誌「月刊PC-Webzine」を中心とする雑誌制作にとどまらず、DTP、Web、Movieさらにイベントのプロデュースや販促品の企画制作まで、幅広い分野でサービスを提供できるよう体制を整えています。